

未完の 柳ヶ瀬物語

～余白が紡ぐ暮らしの場～



“物語”のある通りに再編集する



自分の“物語”を育む場を設ける



新旧の柳ヶ瀬の“物語”を挿入する



新旧の柳ヶ瀬の“物語”を挿入する



“物語”を紡ぐ場を設ける

暮らしの場としての再生

かつて柳ヶ瀬は娯楽のまちであり、県下随一の繁華街、市民の「ハレの場」として賑わっていたが、現在は空洞化が進み活力が低下したことで、賑わいが失われている状況にある。そこで、本提案では柳ヶ瀬を「ハレの場」から「暮らしの場」へと転換させることにより、「日常に」密着した商店街としての賑わいの再生を目指す。

対象地区を100人が1回訪れるまちから10人が10回訪れるまちへ転換させ、対象地区に住む人や対象地区を訪れる人が様々な日常をおくる＝“暮らし”まちを目指す。

ポイントは“物語”

名物おばちゃんに会いにあのお店に…あのお店に行くといつも新しい発見がある…というような、商品や行為に付随する“物語”による選択も見られるようになった。

本提案では、そうした社会の小さな変化に着目し、まちなかに物語との出会いを生み出すことで、暮らしの中で対象地区を選択してもらう仕組みをつくる。

余白を基点にまちを活性化

現在、対象地区には「空き地」、「空き店舗」、「駐車場」などの低未利用地＝『まちの余白』が散在しており、そのことがネガティブに捉えられている。

対象地区を再生するにあたって、不足している要素や更新すべき要素を散在する『まちの余白』に“物語”を生み出す仕掛けとともに挿入していく。そのまちの小さな変化を継続して行っていくことで、まちに常に新たな魅力が生まれる。

まちの余白がポジティブな存在となる。

“物語”を生み出す柳ヶ瀬モデル

本提案では、「まちの余白を活用し、“物語”を生み出す4つの活性化手法とその活性化手法を支える3つの仕組み」＝『柳ヶ瀬モデル』を提案する。柳ヶ瀬モデルによって、余白を基点にまちに暮らし人々の小さな“物語”が生まれ、それらが積み重なることでまちを特徴づけ、新たな柳ヶ瀬物語がはじまる。

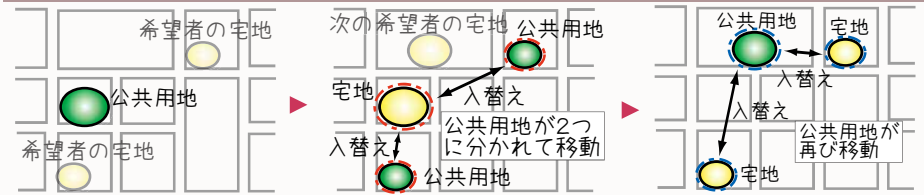
そして、柳ヶ瀬モデルによってまちの余白を活用し続けることで、柳ヶ瀬物語は続いていく。

柳ヶ瀬モデル

- “物語”のある通りに再編集する
- 自分の“物語”を育む場を設ける
- 新旧の柳ヶ瀬の“物語”を挿入する
- “物語”を紡ぐ場を設ける
- “物語”との出会いを増やす仕組み
- “物語”を生み出し続ける仕組み
- “物語”を動かして続ける仕組み

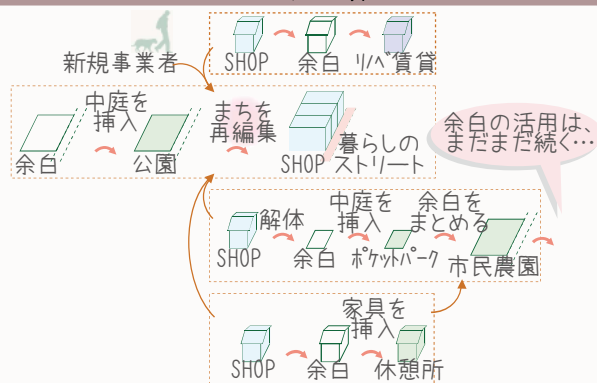
『未完の柳ヶ瀬物語』を生み出す仕組み

ごま塩市街地の改善



整備手法：空き地、空き店舗、駐車場などが散在する、いわゆる「ごま塩市街地」改善のために、土地の入れ替えを主目的とした土地区画整理事業を実施し、宅地の共同利用など土地の有効活用を誘導する。

まちの余白の変遷



そして『未完のまち』へ

余白を活用し続けられる仕組みを持つことで、永続的にまちの再編集及び活性化を行うことができる。このことで、今後のニーズの変化にも対応できるまち、常に新しい魅力が生まれるまち、持続可能な『未完のまち』となる。

そして、まちの余白はいつの時代にも
柳ヶ瀬物語を引き立てていく…